

抗がん活性化化合物

主たる提供特許	出願者	国立大学法人長崎大学
	題名	抗癌活性化化合物
	番号	PCT/JP2012/050872

ラメラリンをモデルとした新規な抗がん活性化化合物BBPI類

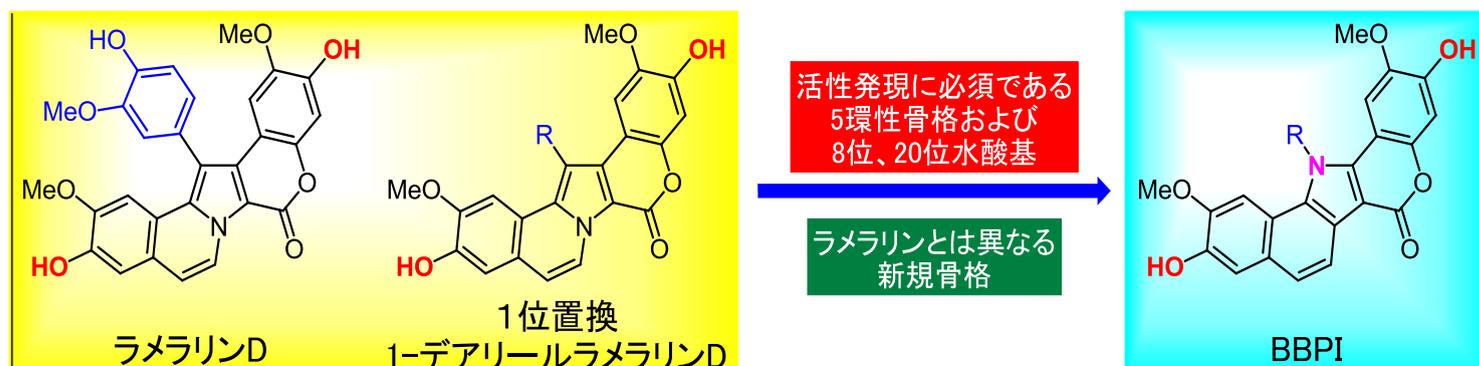
技術概要

発明の背景

- ・海洋天然物ラメラリンDは、1985年、Faulknerらによりパラオ共和国のマラカイ湾に生息するベッコウタマガイの一種Lamellaria sp. から単離されました。
- ・ラメラリンDは、各種がん細胞に対してnMレベルで強力な細胞毒性を示すことが知られています。
- ・p-糖タンパク質(薬剤排出ポンプ)が発現した悪性度の高い多剤耐性がん細胞に対しても有効とされています。

発明概要

- ・窒素原子上に様々な置換基を導入したアナログの製造が可能となり、その置換基の効果により物性や活性の制御が可能となります。
- ・BBPIとラメラリン骨格では電子状態が異なるため、新たな作用機序に基づく特異性が発現することも期待されます。



応用分野

実用化例

抗がん剤などの医薬品

実用化に向けた課題

詳細な生理活性及び安全性試験、将来的には臨床試験が必要です。

企業へのメッセージ

- ・BBPIはこれまでに報告例のない新規骨格です。BBPIはラメラリンと類似構造のため、同様の抗がん活性が期待されます。
- ・共同研究先企業を探しています。